

ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合って心のときめきをコーディネートするために

ニュースレター

< 円山動物園の春まつり >

長かった冬が終わり、春の訪れと共に円山動物園の春まつりが開催されました。4月29日・5月2日にセンター前広場で大道芸が、5月3～5日に野外ステージでキャラクターショーが行われました。北大1年生でもあるジャグラーのコーヘイさんは、人間とロボットの動きを入れ替えながら、動物のぬいぐるみや、ボール、ボーリングのピン等、何でもお手玉にしています。特に、テグスを使ったコマの綱渡りは観客からオーツ！と歓声が上がりました。大人も子供もコーヘイさんの一挙手一投足に見入って楽しんでいました。キャラクターショーでは、クイズなどもある観客参加型で親子連れのお客様も舞台と一体となって楽しんでいました。花も咲いている動物園の中で、お弁当を広げている家族連れのお客様も多く、春まつりを本当に楽しんでいるようで私も楽しく過ごしました。



（熱帯動物班 水戸久仁子）



< オオワシの赤ちゃん誕生 >

オオワシが9年ぶりに飼育下自然繁殖に成功、4月8日に孵化、3ヶ月が過ぎた7月初め巣立ちをし、猛禽舎の真中にある止まり木に翼を休めているヒナの姿が見られます。ヒナながらも、身体の大きさは親と同じかそれ以上、鋭い目つきと精やかな顔で来園者を見回していますが、やはりヒナ、嘴と脚は白色、鳴き声は身体に似合わず、か細げで下手。移動は止まり木から「バサッ！！」と墜ちるように地面におり、それからおもむくに又「バサッ！！」と次の場所へ飛ぶ。思わず「おいおい大丈夫？」と声をかける私です。オオワシといえば円山と言われるほど、世界の動物園でも当園が有名で、平成5年最初の繁殖に成功、平成6年度日動水繁殖賞受賞。平成12年は3個の卵を産んで、3個とも孵化、これは極めて希だそうです。今年2月には「絶滅の恐れがあるオオワシを保護するため、当園で人工繁殖しロシアサハリン州でヒナを放す計画を進める事で、日本とロシアが政府レベルで合意した」という報道がありました。今回生れたヒナが元気で長生きをして繁殖し、その子どもが日本とロシアの大空を飛ぶのを心から願っています。

（は虫類班 藤田叶子）

< 7期生の研修を実施して >

6月21日、7期生10名の真剣な目に、10年前の自分を思い出しながら、ツアーガイド研修を実施。日頃、「大人から幼稚園児にまで、分かりやすいガイド」を心がけている私は、ボランティアならではの話がお客さんと接するときの大事な要素であると理解してもらうことを研修の目的として、ズーガイドに載っていないエピソードを中心に話したので、ズーガイドの中身を一生懸命覚えようとしていた7期生は戸惑われた様子。例えば、『フクロウとタカの森』の前では「キーパーさんがお掃除中にお客さんに声をかけられて振り向いたときに後ろからフクロウに襲われたことがあります。そんな危険があるからキーパーさんが返事をしないで許してください」とお客様に説明する事や、「エゾシカが万葉集の『奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞くときぞ秋は悲しき』の歌そのままに秋の繁殖期には物悲しい声で鳴く」事等。冷や汗をかきながらの2時間は、7期生のためと云うより、私にとっての重要なステップとなったように思います。

（こども動物園班 高橋淑子）

< カバと一緒に虫歯予防デー >

5月31日（日）熱帯動物館カバ放飼場前で、虫歯予防デー（6月4日）にあわせて『カバと一緒に歯磨きキャンペーン』が実施されました。まず石橋獣医によりドンの歯磨きが行われ、続いて松田飼育員から「ドンは7月15日で40歳になるが、42本ある歯には虫歯は1本も無い。主に奥歯で食物を噛み砕き、前歯は土をほじるのに使う。威嚇や犬歯で戦うとき大きく口を開ける。犬歯は一生のび続ける。シッポでマキフンを行い、10回～20回でプールの水は汚れてしまう。5分位は潜る事が出来、夜、陸に上がりエサを探す。赤い汗を流すことにより皮膚を保護している。体重は2～3tと思われる。」等々、カバについての説明がありました。歯磨きが終わったドンは、ご褒美に大きなスイカ、リンゴやミカン



を沢山もらい、美味しそうにアツという間にたいらげました。ドンちゃん、いつまでも虫歯のないキレイな歯でいてネ！

（熱帯動物班 水戸久仁子）

< アニマルファミリー (弟路郎感謝イベント) >

7月5日(日)アニマルファミリー『オランウータン弟路郎・感謝イベント』が開かれました。最初、科学館で酒井園長からレンボー到着時の様子や弟路郎との今後への期待などのお話があり、続いて飼育担当の吉田さんのお話。「レンボーは人間ともオランともコミュニケーションがとれる個体で愛想が良く優しい」との事。吉田さんがレンボーを可愛がりすぎたため弟路郎が焼きもちを焼き、レンボーの写真を撮っているとカメラを取り上げようとしたりして心配しましたが、徐々に興味はレンボーへ移行。今では弟路郎の気持ちは吉田さんよりレンボーに傾いているようで、吉田さんの思いは複雑だとか。ともあれ、二人の相性は良さそうなので一安心。ベビー誕生の知らせもそう遠くないかもしれません。お話の後、類人猿館に移動し30人ほど集まったファミリーが2班に分かれてバックヤードに入り一人ずつ弟路郎達の手や口に直接果物などをあげました。この日のためにとたくさんの果物がプレゼントで集まっていて、吉田さんからも感謝の言葉がありましたが一番喜んでいたのは弟路郎達かもしれませんね。



(類人猿班 飛騨野かな代)



< 羊の毛刈り2009 >

5月17日、子ども動物園において恒例の羊の毛刈りが公開で行われました。原種の羊は自然と毛が生え換わりますが、改良種の綿羊は自分で換毛できないので放っておくと夏も冬も構いなく伸び続けてしまいます。夏場に厚いセーターで過ごすのは気の毒なので、毎年この時期に毛刈りを行っています。たくさんのお客様が見守る中、登場したモコモコの羊はソワソワと落ち着かなかったのですが、キーパーさんに押さえられるとおとなしく観念した様子。バリカンの音が響く中、キーパーさんの華麗な手さばきでみるみる積み上がる毛の山。あっという間に2サイズくらい小さくなった羊は白くてスッキリ。ショートカットもよく似合います。終了の合図でもあるご褒美の草をもらって、やっとリラックスできたようです。さっぱりと涼しく夏を過ごしてくれると良いですね。今回1頭から刈り取られた毛は約4キロ。どう活用されていくか楽しみです。



(こども動物園班 西川明子)

< ウールで遊ぼう(ふれあい教室) >

7月4日と11日の両日、天候に恵まれ総数1150名と多くの方がヒツジの毛で作品を作り楽しい時間を過ごしました。他班からの応援と前日登録式を終えたばかりの7期生のお手伝いで好調な出足です。色とりどりのヒツジの毛をミニカップに入れてアイスクリームの出来上がり(おいしそう!)、世界に一つだけのマイボール。どんぐりの袴に詰めたボンボリはいかが?出来上がった作品に満足そうな顔・顔・顔(良かったア!)。流れる汗をそっと拭いてくれる優しい仲間に癒され、また元気が出ます。今年で3年目のイベントですが、羊の毛が媒体となり、大人も子ども達も、人と人との心のふれあう瞬間でもありました。



(こども動物園班 都築勝江)

< アニマルファミリー「ドン」お誕生会 >

7月12日、ドン・ファミリーによるお誕生会が開かれました。カバのドンちゃんは昭和44年7月15日生で40歳。ファミリーの皆さんはドンちゃんの好物を持って中に入りました。いつも水の中でジューツとしている姿しか見ていない私は、軽やかに水から出て大きな口をあげ、美味しそうにパクパク食べる姿にびっくりしました。ファミリーの皆さんも大声をあげて喜んでいました。熱帯動物館では、ゾウの花子、キリンのたかよ、マレーバクのスティーブ、ダチョウのドニー、ペルシャヒヨウのヤヤが亡くなり、とっても寂しくなりました。ドンちゃんを見ると皆の心が優しくなります。先に亡くなった仲間の方まで長生きして下さいね。お腹が一杯になって眠り、見る夢は自慢の時速40kmの足で草原を走っているのかなー。ドンちゃんお誕生日おめでとう。

(熱帯動物班 鈴木一恵)

< 円山動物園の裏側探検記 >

普段は見る事が出来ない動物園のバックヤードをキーパーさんが案内してくれる『第3回裏側探検ツアー(札幌市自治研推進部主催)』に参加してみました。午前の事前学習では「キーパーさんは動物達とどの様に接し、どんな苦労があるのだろう?」「動物がケガをした時はどうするの?」等の話や、ホッキョクグマの双子の赤ちゃんの産室での様子や飼育舎の工夫等の話に一同興味深々。午後は5班に分かれ動物園の舞台裏探検にいざ出陣。スタッフオンリーの部屋の中は調理台や動物の給餌材料が並び、ボードには調理メニューや繁殖個体の発情の様子などがメモされ、動物の監視カメラが並び等キーパーさんの日頃の奮闘振りを窺わせるエリアです。カンガルー館やサル山では動物達の居住空間に入り彼等と同じ目線で入園者を眺めたり眺められたり、と楽しいツアーでした。皆さんも是非体験してみても如何ですか。



(世界のクマ班 小松久恭)

特集記事 「動物のあれこれ」 (第6回目)(完) (は虫類班)

=今回はいろいろな事情で円山動物園にやって来た3種類の動物を紹介します=

(スローロリス) 原始的な霊長類の仲間であまりとした動きと大きな目が特徴的。夜行性で木の上で単独生活を営み、枝の間を音も立てずに移動できる。じっとして、寄ってきた獲物の昆虫を捕える。昆虫の他に樹液や果実を食べる。餌を取る時の動きはわりと素早い。ロリス類は東南アジアに分布する。「ロリス」とはオランダ語で道化師の意味。漢方薬の材料、食肉用、ペットとしての需要があるために密猟され、更に森林伐採により生息地を奪われ、2007年9月にワシントン条約附属書に指定。円山動物園には、東南アジアの熱帯雨林で密猟されて日本に持ち込まれ、税関で保護されたロリス達が2007年9月にやって来た。前年の2006年には日本で100頭を超える密輸が摘発された。カンガルー館の夜行性動物の部屋に展示。「お持ち帰り」したくなるような可愛さなのでぜひ見て欲しい。もちろんお持ち帰りはできません!



(は虫類班 初貝敏枝)

(ワニガメ) ワニガメは最大甲長80cm、体重80kgで、淡水のカメとしては世界最大級である。甲羅は規則的な凹凸があります。寿命も 人生50年~程でしょうか。現生種ではワニガメが唯一原始的形態を残していると言われています。近年、個体数が減り、ワシントン条約附属書に指定され国際取引が規制されています。また、動物愛護法による特定動物に指定され、飼育をする際には都道府県の許可が必要な生き物です。ところが、円山動物園の爬虫類館に居るワニガメは、2007年9月に三笠市の川で発見されたのです!本来、ワニガメは要注意外来生物ですので手続きが大変、面倒だという理由で、飼育を放棄し川に放すという、人間の身勝手な行為が許されるものではないのです。飼育を放棄されたワニガメは、日本の気候に順応し帰化してしまい、在来種のカメの生態系を壊す可能性があるのです。爬虫類館のワニガメの獲物捕獲作戦を見てください。口の中の擬似餌を巧みに使い獲物を誘っているのです。可愛いではありませんか!!生きていこうと必死なのです。人間の一時的で身勝手な感情のもとに自然界から捕獲され、安易に購入されたのは良いが、早々に飽きられ、あげくの果てに飼育放棄!その時の人間の思いはどうかというと「自然に返してあげたほうがワニガメの為になる」なーんていう勝手な言い分だけです。何もワニガメの為にはなっていないのです。どんな生き物であれ、一度ペットとして飼育しようと思ったなら、「その生き物の生態を理解しているか」「病気になっても看病出来るか」「看病をしても死んでしまうこともある」等を考え理解し、責任を持って最後まで飼育する覚悟が必要条件です。絶対に最後まで手放すことはしないと断言できるのなら、めっちゃくちゃに可愛がってあげて欲しいのです。それはきっと、人の心を癒してくれるはずですよ。断言します!



(は虫類班 谷口幸子)

(グリーンイグアナ) 皆さん、こんにちは!僕(?)グリーンイグアナです。僕は現在、円山動物園で暮らしています。何故かと言うと、何年か前にある家でペットとして毎日楽しい日が続きました。ところが、何年か経ち僕がダンダン大きくなり、ペットとしては不向きな体格となりました。飼い主は手におえなくなり、僕は捨てられたのです。飼い主は、せめてもと思い動物園の前に置いたのです。僕は幸いにも動物園の人に拾われました。僕は思います。動物は小さい時は可愛いのです。でも簡単に飼わないでください。僕たちイグアナの飼育は大変難しくエサも大変です。広い部屋も欲しいのです。これは大変なことですよ。僕たちのような希少動物はペットにはいけないのです。動物園で見て欲しいのです。爬虫類館の裏側には札幌駅のコインロッカーに捨てられていた僕の仲間がいます。毎日のんびりとチンゲンサイを食べている僕の姿を見に来てね。飼育員さんに、シャワーのように水をかけてもらいルンルン気分です。うつらうつらしている時もありますよ。皆さん僕は円山動物園に居ます!会いに来てね!



(は虫類班 谷口克美)

<アメリカの動物園を回ってきました> (その4 - サンタバーバラ Santa Barbara Zoo)



美しくリッチな街、サンタバーバラ。そこの動物園のキーパーさんが「お宅の庭になってる果物で食べ切れないのが有れば頂けませんか?」と来ると聞いてビックリ! 実際、友人の家には沢山の梨が有ったし、周りの家にもアボカド、びわ、ライム、レモン、オレンジ、すごい種類の果物になってる!そして皆が口を揃えて言うのは「小さいけれど大好きな動物園よ!」・・・有名なキリンの話も聞いた。生まれた時から首が折れていたキリンがいて、皆に愛されていた。動物園のシンボルだったそのキリンが、一週間前に21才で亡くなったと。ああ~もっと早くに来て会いたかった。真っ直ぐ向かったゴリラ舎が一番奥にあったが、向かう途中も楽しい。サボテンやヤシの木、野性の鳥達の為に餌台があちこちに。ここは動物園全体がデザインされてる。ゴンより2周り位大きなシルバーバックが2頭同居。お互いの存在がストレスになってる様子で傷だらけ。どちらか日本に来てくれたら幸せになるのに・・・等と思いながらの動物園めぐりでした。(完) (類人猿班 カフマン弘美)

<星に願いをこめて>

7月12日、七夕まつりが行われました。朝早くから沢山の入園者が参加され、夫々の願いを短冊に書いて頂きました。短冊には「勉強」「スポーツ」「家族への思い」「将来への希望」そして「円山動物園にゾウが来てほしい」「動物園がなくならないでほしい。」という大きな期待までありました。又、字の書けない幼児達は、短冊に大好きな動物のスタンプを押して星に願いをかけていました。それらの短冊は用意した三本の柳の枝に吊るされましたが、枝が埋まる位沢山になりました。私もみーんなどの健康を願いました。七夕まつりへの準備をしてきた熱帯動物班及び関係者の皆様大変お疲れ様でした。この行事をいつまでも続けられるよう、又、毎年大成功に終われるようにボランティアの方々のご協力をお願い致します。



(類人猿班 舟山良子)

<アースデイ2009 in 円山動物園(地球のことを考え行動する日)>

5月17日(日)円山動物園を会場に開催されました。これからの地球のことを考えるために何か行動出来ないかと、動物になりきるアニマルイベントや環境に関するゲーム等33件の出展があり、入園された方々は、お目当ての出展ブースに集まって、それぞれの担当者から熱心に説明を聞いていました。レンジャー体験のコーナーでは女の子も含めて、ヘルメット姿でロープ頼りに数メートル樹上に挑戦する子供達で賑わっていました。円山動物園としては今回都合により出展がなく少々残念でした。来年は是非参加され、我々もお手伝い出来る事を楽しみにしています。地球上の動物達と地球の明日について考える良い一日でした。



(サル山班 渡邊勝利)

= 投函コーナー =



- * 何? * 死んだふり? *! いえいえ、タヌキ寝・いや、ただの昼寝でやんす。気持ちよかたい
(こども動物園班 大場めぐみ)
- * 艶を競う * 円山動物園は桜の名所。5月初め、ソメイヨシノ・ヤマザクラが咲き、次いで八重桜が重厚に咲き誇り、とくにレストハウスからエゾシカ・オオカミ舎、世界のクマ館への道筋はまさに春爛漫といったところです。
(熱帯動物班 田中茂雄)
- * 3度目の快拳! * ヨウスコウワニの赤ちゃんが6/29から7/1にかけて16匹も誕生。世界でも中国、米国に次いで3カ国目となる繁殖の成功です。黒と黄色の縞模様がとても美しいです。爬虫類館で展示中です。
(は虫類班 藤田叶子)
- * 円と命名 * ゼニガタアザラシの赤ちゃん「沢山おっぱい飲んで、丈夫で大きな男になるんだぞ」
(世界のクマ班 山川泰弘)
- * 大人気 * ユキヒョウの双子の赤ちゃんは可愛らしく、連日大勢の人垣が出来ています。
(こども動物園班 小熊 瞳)

『世話役会からのお知らせ』

H 21 年度ボランティア世話役会の役割が決まりました。

総務部：会計 福田 努(世界のクマ班) 会計監査 米山輝子(こども動物園班)

総務・記録 水戸久仁子(熱帯動物班)

広報部：連絡調整 伊藤 剛(類人猿班) ニュースレター (編集関係者の氏名は下記の通りです)

編集後記

今年も円山動物園はかなりの出産ラッシュで、中でも絶滅が危惧される世界的な希少種(ユキヒョウ・ダイアナモンキー・ヨウスコウワニ)等の赤ちゃん誕生は、ホッキョクグマに続いて人気を集めています。待望の7期生がいよいよ活動開始、ご活躍が期待されます。さて、本年度のニュースレター編集スタッフは引き続き下記の方々です。会員皆様の温かい御支援をお願い致します。次号は特集記事に「キーパーさん紹介」を予定しています。お楽しみに。(原稿締め切りは9/18です)

編集スタッフ：山川泰弘 西川明子 松山幸子 小熊 瞳 田中一江 星原恵子 藤田叶子 紺野仁一 水戸久仁子
大地 淳 田中茂雄 伊藤 剛

編集責任者：丹野健治(TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊